

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20310150

研究課題名(和文) 20世紀東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関

研究課題名(英文) Inter-relationships of audio-visual media in the 20th century of East Asia

研究代表者

三澤 真美恵 (MISAWA MAMIE)

日本大学・文理学部・准教授

研究者番号：90386706

研究成果の概要(和文)：

本研究では東アジアの複数の地域(日本、中国、香港、台湾、シンポール、韓国、北朝鮮)および複数の視聴覚メディア(テレビ、映画、レコード、ラジオ)を対象に、地域間・メディア間の相互連関性を検討した。各年度に行われた国際ワークショップや国際シンポジウムを通じ、国内外の研究者が多様なディシプリンを持ち寄ったことで、東アジアに固有の相互連関の具体的様態についても明らかにすることができた。本研究の成果は論文集として公刊される予定である。

研究成果の概要(英文)：

This research focused on plural areas (Japan, China, Hong Kong, Taiwan, Singapore, South Korea, and North Korea) and plural media (TV, Movie, Record, and Radio) in East Asia, and examined the interrelationship among those areas and those media. Through our international workshops and symposium, domestic and foreign researchers have brought multiple disciplines, and have clarified the specific cases of interrelationship, which were indigenous to East Asia. And the result of this research is due to be published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
総計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：東アジア、視聴覚メディア、都市ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

20世紀東アジアにおける視聴覚メディアに関する研究は、各地域における個別のメディアごとには蓄積が進んでいた。しかし、複数のメディア相互の関係性、ないし複数の地域相互の関係性に関しては、ほとんど手付かずの状況にあった。

## 2. 研究の目的

東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関こそが、欧米とは異なる東アジア独自の域内論理と形成したのではないか、という仮説にもとづき、本研究では複数のディシプリンをを用い、メディア間・地域間の相互連関性を明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

以下3つの研究軸(アプローチ)を使用し、東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関を立体的に解明することを試みた。

- (1) 地域軸=東アジアの地域研究アプローチ(個別メディア相互の連関性に着目)
- (2) 超域軸=トランスリージョナル・アプローチ(個別メディアの各地域間における相互連関性に着目)
- (3) 専門軸=テーマ別・アプローチ(政治・外交、産業・技術、経済などの側面に着目)

### 4. 研究成果

各年度に行われた国際ワークショップや国際シンポジウムを通じ、国内外の研究者が多様なディシプリンを持ち寄って、東アジアの複数地域(日本、中国、香港、台湾、シンポール、韓国、北朝鮮)および複数の視聴覚メディア(テレビ、映画、レコード、ラジオ)を対象に、地域間・メディア間の相互連関性を検討した。視聴覚メディアの相互連関こそが欧米とは異なる東アジア独自の域内論理を形成したと結論づけるまでには到らなかったが、この仮説を検証する中で、これまで不詳であった東アジアに固有のメディア相互連関について、その具体的な様態を明らかにすることができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計28件)

1. 佐藤卓己、電体主義のメディア史—電腦社会の系譜学に向けて、メディア史研究、査読有、30、2011、印刷中
2. 佐藤卓己、“輿論の世論化”とファスト政治、都市問題(東京市政調査会)、査読無、9月号、2011、pp.13-17
3. 佐藤卓己、<教育番組>としてのスポーツ：歴史的考察と政治機能、月刊民放、査読無、4月号、2011、pp.14-17
4. 小林聡明、韓国検閲体制の起源—「帝国検閲」と植民地朝鮮(韓国語)、亜細亜研究、査読有、54巻1号、2011、pp.155-191
5. 小林聡明、史料紹介「韓国外交文書に見る沖縄返還：『琉球(沖縄)問題—問題点と政府立場』」、Intelligence、査読無、Vol.11、2011、pp.70-79
6. 小林聡明、書評『日韓関係と韓国の対日行動—国家の正統性と社会の「記憶」』金榮鎬著、現代韓国朝鮮研究、査読無、10巻、2010、pp.119-120
7. 孫安石、南京国民政府と教科書審定、中国研究月報、査読有、746、2010、pp.1-13
8. 孫安石、上海の歴史変遷と都市計画、地図情報、査読無、30-1、2010、pp.4-8
9. 佐藤卓己、世論調査の現実と公議輿論の理想、メディア展望(新聞通信調査会)、査読無、585、2010、pp.1-5
10. 佐藤卓己、天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市 第5回、考える人、査読無、春号、2010、pp.250-259
11. 貴志俊彦、Effects on the Republic of China of the Collapse of the “Empires” after the First World War: Restoration of Sovereignty in the Former Concessions of Germany and Austria-Hungary、年報『非文字資料研究』、査読無、6、2010、pp.107-118
12. 三澤真美恵、シンガポール映画研究へのアプローチ、中国語中国文化、査読有、7、2010、pp.123-129
13. 川島真、『歴史』をめぐるガバナンスと文書管理—東アジア歴史認識問題をめぐり、年報行政研究、査読無、44、2009、pp.109-123
14. 佐藤卓己、活字がニュー・メディアになる未来、考える人、査読無、秋号、2009、pp.74-75
15. 佐藤卓己、天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市 第4回、考える人、査読無、冬号、2009、pp.232-241
16. 佐藤卓己、天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市 第3回、考える人、査読無、秋号、2009、pp.202-210
17. 佐藤卓己、天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市 第2回、考える人、査読無、夏号、2009、pp.202-210
18. 佐藤卓己、天下無敵—戦後ジャーナリズム史が消した奇才・野依秀市 第1回、考える人、査読無、春号、2009、pp.142-150
19. 佐藤卓己、民放における「テレビ的教養」の可能性(特集 放送と青少年)、月刊民放(日本民間放送連盟)、査読無、39巻2号、2009、pp.8-11
20. 佐藤卓己、弾圧された右翼ジャーナリズム—昭和言論史の再審へ、中央公論、査読無、2009、1月号、pp.57-65
21. 孫安石、プランゲ文庫と戦後の空白、神奈川大学『図書館だより』、査読無、第125号、2008、pp.4-5
22. 孫安石、戦争とメディア、そして生活、アジア遊学、査読無、113号、2008、pp.13-17
23. 佐藤卓己、テレビを教養のセーフティネットに!—クイズ番組と《テレビ的教

- 養》、調査情報 (TBSメディア総合研究所)、査読無、483、2008、pp. 44-49
24. 佐藤卓己、インターネット時代のテレビ的教養：“ローカルな知”の可能性？、日本の社会教育、査読無、第52集、2008、pp. 157-169
  25. 貴志俊彦、戦争とメディアをめぐる歴史画像デジタル化の試み—満洲国ポスター&伝単データベース、アジア遊学、査読無、113号、2008、pp. 68-74
  26. 貴志俊彦、Source Material Digitalization and Chinese Studies in Japan, Asia Research Trend (New Series, Toyo Bunko)、査読有、No. 3、2008、pp. 81-93
  27. 三澤真美恵、映画にみる東アジア現代史、歴史と地理・世界史の研究、査読無、8月号、2008、pp. 42-45
  28. 三澤真美恵、国際ワークショップ“Pop Culture in Asia: Comparison of Film Culture”、アジア遊学、査読無、115号、2008、pp. 190-193

[学会発表] (計 35 件)

1. 三澤真美恵、談台湾電影的接受空間、中央研究院台湾史研究所文化群演講、2011年3月18日、中央研究院台湾史研究所
2. 三澤真美恵、植民地時期台湾電影史研究的現況、華文戲劇專題課程講演、2011年3月9日、(台湾) 清華大学台湾文学研究所
3. 小林聡明、Okinawa Reversion and U. S. Radio Broadcasting toward the Korean Peninsula、American Historical Association、2011年1月6日、Hynes, Convention Center, Boston, USA
4. 孫安石、特別講演「上海・中国近現代史研究の周辺から感じたこと」、青山学院大学史学会、2010年12月11日、青山学院大学
5. 孫安石、上海人民廣播電台と新中国の政治：政治動員のメディア、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
6. 小林聡明、東アジア冷戦とアメリカ・ラジオ：VUNC (国連軍総司令部放送) の廃止をめぐって、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
7. 川島真、中華人民共和国電視 (テレビ) 史の概要と研究状況、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
8. 三澤真美恵、戦後台湾映画産業の形成—

- 地域間の資材移動という視角から、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
9. 佐藤卓己、放送教育史から見た日本のテレビ文化、国際シンポジウム「20世紀東アジアにおける視聴覚メディア相互連関」、2010年12月10日、日本大学文理学部
  10. 貴志俊彦、非文字資料による20世紀満洲史研究へのアプローチ：ビジュアル・メディアとSPレコード盤、近現代東北アジア地域史研究会設立20周年記念研究大会、2010年12月5日、日本大学文理学部
  11. 孫安石、日本人がみた上海—『上海案内』の世界、国際シンポジウム「中国・朝鮮における租界研究のいま」、2010年11月26日、神奈川大学横浜キャンパス
  12. 貴志俊彦、『朝日新聞富士倉庫照片』與戦時審査問題、香港中文大学日本学系成立20周年記念国際學術研討会「近現代日中文化交流看現代性及身份認同的探索」、2010年11月13日、香港中文大學文物館
  13. 三澤真美恵、植民地期台湾電影史研究の可能性、音楽学研究討論課程系列講演、2010年11月12日、台湾大学音楽学研究所
  14. 川島真、Sino-Japanese Controversies over Textbook Problems and the League of Nations, International Conference Networks in Times of Transition. Toward a Transcultural History of International Organizations, October 21-22, 2010, University of Heidelberg
  15. 貴志俊彦、A Resources Sharing Database for East Asian Area Studies: Pictorial DB of Manchukuo's Propaganda Posters & Bills, Joint Seminar with Institute for Mediterranean Studies, 2010年9月7日京都大学次世代研究者育成センター
  16. 佐藤卓己、マス・コミュニケーションの系譜学：宣伝/広報と輿論/世論を例に、科学コミュニケーション研究会第二回研究会、2010年7月24日、東京大学本郷キャンパス小柴ホール
  17. 貴志俊彦、東亞・東南亞媒體文化中的太平洋戰爭及戰後的記憶與記 (5日)、援引非文字資料的歷史研究新方法—中國滿州的視覺媒體和SP唱片 (6日)、Public Lecture、2010年7月5-6日、香港浸会大学
  18. 貴志俊彦、拙著『満洲国のビジュアル・メディア—ポスター・絵はがき・切手』をめぐって、社団法人国際善隣協会にお

- ける講演会、2010年6月11日、社団法人国際善隣協会
19. 貴志俊彦、文化冷戦期美國的宣傳活動以及其對亞洲的影響、「文化冷戰的時代－美國的資訊戰略與亞洲的傳媒發展」國際學術論壇、2010年5月6日、台灣・輔仁大學文學院大眾傳播學研究所
  20. 佐藤卓己、メディア史の成立－歴史学と社会学の間、関西学院大学社会学部創設50周年記念連続学術講演会、2010年4月28日、関西学院会館レセプションホール
  21. 佐藤卓己、通信教育と「孤独な学習」－『ラーニング・アロン』を考える－、日本通信教育学会 第1回研究交流集会、2010年2月13日、キャンパスプラザ京都
  22. 三澤真美恵、「戦後」台灣的「日本電影欣賞會」：一九六〇年の狂熱與批判」、國際學術研討會「戦後台湾社会與經濟變遷」、2009年12月24日、中央研究院
  23. 三澤真美恵、植民地時期台灣知識分子的非當利電影放映活動、Conference: History of Early Chinese Cinema(s) Revisited (中国早期電影歷史再探研討會)、2009年12月16日、香港大學
  24. 佐藤卓己、メディアと世論調査－ファシスト的公共性の視点から－、社会文化学会第12回全国大会、2009年12月13日、大阪大学箕面キャンパス
  25. 貴志俊彦、「満洲国」発行の絵はがきと東アジア絵はがきデータベース、東亜地区租界生活之新議－仁川研討會－、2009年10月24日、仁川ハーバー・パークホテル
  26. 貴志俊彦、Trial of Demographic Analysis by “Population Statistics Database Management System”, PNC/ECAI Annual Conference and Joint Meeting、2009年10月6日、中央研究院
  27. 三澤真美恵、被遺忘の「抗戦」電影導演何非光：一位殖民地時期台灣出身者想像中的「我們」、《總體戰的文化事情：殖民地後期韓國跟台灣比較研究》研討會、2009年7月25日、(台灣) 清華大學
  28. 佐藤卓己、<昭和>の記憶と世論/輿論、日本マス・コミュニケーション学会春季大会、2009年6月6日、立命館大学衣笠キャンパス
  29. 貴志俊彦、東アジア『外国人プロジェクト』の成果と課題、韓日ワークショップ「東アジアにおける移住民問題と国籍」、2009年5月2日、ソウル大学奎章閣
  30. 貴志俊彦、人口統計と地域情報、平成20年度京都大学地域研究統合情報センター共同研究ワークショップならびに全国共同利用研究報告会、2009年4月25日、京都大学地域研究統合情報センター
  31. 孫安石、上海のThe North China Heraldと日本の山東出兵関連の報道、國際ワークショップ「探索租界研究的新的可能性－上海研討會－」、2009年3月28日、上海・文廟
  32. 佐藤卓己、日本における『テレビ的教養』の系譜、國際ワークショップ「東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関」、2008年12月28日、上海社会科学院
  33. 川島真、戦時下上海における日本の放送政策、國際ワークショップ「東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関」、2008年12月28日、上海社会科学院
  34. 三澤真美恵、米國広報宣伝と香港・台灣『自由』映画陣營の形成、國際ワークショップ「東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関」、2008年12月28日、上海社会科学院
  35. 貴志俊彦、日本における中国研究と画像デジタル・データベース、國際ワークショップ「東アジアにおける視聴覚メディアの相互連関」、2008年12月28日、上海社会科学院
- 〔図書〕(計50件)
1. 貴志俊彦、京都大学学術出版会、近代アジアの自画像と他者－地域社会と「外国人」問題、2011、pp. 1-11、pp. 199-228
  2. 佐藤卓己、世界思想社、「教育のメディア幻想」稲垣恭子編『教育文化を学ぶ人のために』、2011、pp. 2-25
  3. 佐藤卓己、作品社、「“一億総博知化”メディア論者・近藤春雄の文化映画論」鈴木貞美編『《Japan To-day》の研究：戦時期《文藝春秋》の海外発信』、2011、pp. 344-348
  4. 三澤真美恵、研文出版、「映画フィルム資料の歴史学的考察に向けた試論——台湾教育会製作映画『幸福の農民』(1927年)をめぐる」王徳威・廖炳惠・黄英哲・松浦恒雄・安部悟編『帝国主義と文学』、2010、pp. 367-393
  5. 三澤真美恵、그린비、「被遺忘の「抗戦」電影導演何非光：一位殖民地時期臺灣出身者想像中的『我們』」金艾琳・柳書琴編『전쟁이라는 '문턱' : 식민지 총력전과 한국 다이완의 문화구조』、2010、pp. 294-318
  6. 三澤真美恵、岩波書店、「帝国」と「祖国」のはざま——植民地期台湾映画人の交渉と越境、2010、372
  7. 三澤真美恵、青弓社、「戦後」台湾にお

- ける「日本映画見本市」——一九六〇年の熱狂と批判」坂野徹・慎蒼健編『〈帝国〉の視角／死角——昭和史のなかの学知とメディア』2010、pp.207-242
8. 貴志俊彦、御茶の水書房、天津の租界接収問題から見る東アジア地域秩序の変動、大里浩秋・貴志俊彦・孫安石編『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』、2010、pp.19-36
  9. 貴志俊彦、吉川弘文館、満洲国のビジュアル・メディア - ポスター・絵はがき・切手、2010、248
  10. 貴志俊彦、慶應義塾大学出版会、「日中戦争期、満洲国の宣伝と芸文——甘粕正彦と武藤富男」エズラ・ヴォーゲル・平野健一郎編『日中戦争期中国の社会と文化』、2010、pp.97-112
  11. 佐藤卓己、思文閣出版、《テレビ的教養》のメディア史—教育史と文化史が見落としたもの、辻本雅史編『知の伝達メディアの歴史研究』、2010、pp.54-67
  12. 佐藤卓己、Robert Maier, Hrsg., Akustisches Gedächtnis und Zweiter Weltkrieg. V&R Unipress, Im Bann der Rede des Kaisers. Die Memorialisierung des "Tags des Kriegsendes" in Japan, 2010、pp.123-148
  13. 孫安石、御茶の水書房、「漢口の日本租界をめぐる日中の攻防」大里浩秋・貴志俊彦・孫安石編『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』、2010、pp.48-77
  14. 孫安石、御茶の水書房、「中国一世論を数値化できる社会へ」孫安石他共編『中国学の魅力』2010、pp.17-34
  15. 孫安石、研文出版、「南京国民政府と教科書審定」並木頼寿他編『近代中国・教科書と日本』、2010、pp.137-160
  16. 川島真、社会科学文献出版社、「過去の浄化と将来の選択—中国大陸、台湾留学生」劉傑・川島真編『1945年の歴史認識—圍繞“終戦”的中日対話嘗試』、2010、pp.34-58
  17. 川島真、社会科学文献出版社、劉傑・川島真編『1945年の歴史認識—圍繞“終戦”的中日対話嘗試』、2010、311
  18. 川島真、研文出版、「日中外交懸案としての教科書問題—1910～40年代」並木頼寿・大里浩秋・砂山幸雄編著『近代中国・教科書と日本』、2010、pp.365-393
  19. 川島真、勉誠出版、「『日中歴史共同研究』の三つの位相—難題はどこにあったのか」笠原十九司編『戦争を知らない国民のための日中歴史認識—「日中歴史共同研究〈近現代史〉」を読む』、2010、pp.73-92
  20. 三澤真美恵、国際書院「米国広報文化交流局 (USIS) と台湾「自由」映画陣営の形成」土屋由香・貴志俊彦編『文化冷戦の時代』、2009、pp.95-117
  21. 貴志俊彦・土屋由香編、国際書院、文化冷戦の時代—アメリカとアジア、2009、281
  22. 貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫編、東京大学出版会、模索する近代日中関係—対話と競存の時代、2009、318
  23. 貴志俊彦、東京大学出版会、「通信メディアの展開と国際関係」飯島渉・村田雄二郎・久保亨編『シリーズ20世紀中国史』第2巻、2009、pp.191-211
  24. 貴志俊彦、東京大学出版会、通信特許と国際関係—在華無線権益をめぐる多国間紛争、貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫編『模索する近代日中関係—対話と競存の時代』、2009、pp.229-248
  25. 佐藤卓己・井上義和編、新曜社、ラーニング・アロン—通信教育のメディア学、2009、361
  26. 佐藤卓己、NTT出版、テレビ的教養—億総博知化の系譜、2009、318
  27. 佐藤卓己、新潮社、輿論と世論—日本的民意の系譜学、2009、350
  28. 佐藤卓己、岩波書店、ヒューマニティーズ—歴史学、2009、141
  29. 佐藤卓己、ナカニシヤ出版、「《NHK青年の主張》における幸福感のゆくえ」子安増生編『心が生きる教育に向かって—幸福感を紡ぐ心理学・教育学』、2009、pp.19-36
  30. 佐藤卓己、ミネルヴァ書房、「野間清治—“雑誌王”の立身出世主義」土屋礼子編『近代日本メディア人物誌—創業者・経営者編』、2009、pp.183-190
  31. 佐藤卓己、毎日新聞社、「テレビが映した“反乱”」毎日新聞社編『1968年に日本と世界で起こったこと』、2009、pp.38-42
  32. 佐藤卓己、世界思想社、「リップマン『世論』のステレオタイプ」井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス 第6巻 メディア・情報・消費社会』、2009、pp.65-74
  33. 劉傑・川島真編著、東京大学出版会、1945年の歴史認識—〈終戦〉をめぐる日中対話の試み、2009、300
  34. 川島真・清水麗・松田康博・楊永明、東京大学出版会、日台関係史、2009、261+23
  35. 川島真・毛里和子、岩波書店、グローバル中国への道程—外交150年、2009、212
  36. 岡本隆司・川島真編著、東京大学出版会、中国近代外交の胎動、2009、211+21
  37. 川島真、東京大学出版会、「戦後の国際環境と外交」飯島渉・久保亨・村田雄二

- 郎編『3 グローバル化と中国（シリーズ20世紀中国史）』、2009、pp. 59-80
38. 川島真、社会科学文献出版社、「再論日本産経新聞之蒋介石秘録の史料価値—与蒋介石日記之比較」中国社会科学院近代史研究編『民国人物与民国政治』2009、380 - 392
39. 川島真、東京大学出版会、「領域と記憶—租界・租借地・勢力範囲をめぐる言説と制度」貴志俊彦・谷垣真理子・深町英夫編『模索する近代日中関係—対話と共存の時代—』、2009、pp. 159-183
40. 川島真、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、「戦後初期日本の制度的『脱植民地化』と歴史認識問題—台湾を中心に」永原陽子編『「植民地責任」論』、2009、pp. 393-417
41. 川島真、東京大学出版会、「外務の形成—外務部の成立過程」岡本隆司・川島真編『中国近代外交の胎動』、2009、pp. 181-202
42. 川島真、National University of Singapore Press、「“China’s Re-interpretation of the Chinese “World Order”, 1900-40s” Anthony Reid and Zheng Yangwen eds, *Negotiating Asymmetry: China’s Place in Asia*, 2009、pp. 139-158
43. 三澤真美恵、中央研究院亞太區域研究中心「植民地「帝国」日本の映画に関する研究動向とその可能性——台湾映画史研究に即して考える」黄自進主編『東亞世界中的の日本社会特徴』、2008、pp. 353-389
44. 三澤真美恵、晃洋書房、「植民地期台湾における映画受容の特徴」小山三郎編『台湾映画——台湾の歴史・社会を知る窓口』2008、pp. 30-70
45. 貴志俊彦、山川出版社「戦後満洲の8月15日」川島真・貴志俊彦編『資料で読む世界の8月15日』、2008、pp. 105-116
46. 佐藤卓己、山川出版社、「8月15日のメディア神話」川島真・貴志俊彦編『資料で読む世界の8月15日』、2008、pp. 17-18
47. 佐藤卓己、新曜社、「放送教育の時代—もうひとつの放送文化史」NHK放送文化研究所編『現代社会とメディア・家族・世代』、2008、pp. 253-276
48. 佐藤卓己、NTT出版、「キャッスル事

- 件をめぐる<怪情報>ネットワーク」猪木武徳編『戦間期日本の社会集団とネットワーク』、2008、pp. 111-135
49. 孫安石、山川出版社「中国における抗戦勝利記念日」川島真・貴志俊彦編『資料で読む世界の8月15日』、2008、pp. 167-178
50. 川島真、山川出版社「台湾の8月15日」川島真・貴志俊彦編『資料で読む世界の8月15日』、2008、pp. 69-80

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三澤 真美恵 (MISAWA MAMIE)  
日本大学・文理学部・准教授  
研究者番号：90386706

### (2) 研究分担者

貴志 俊彦 (KISHI TOSHIHIKO)  
京都大学・地域研究統合情報センター・教授  
研究者番号：10259567

佐藤 卓己 (SATO TAKUMI)  
京都大学・教育学研究科・准教授  
研究者番号：80211944

孫 安石 (SON ANSUK)  
神奈川大学・外国語学部・教授  
研究者番号：30321954

川島 真 (KAWASHIMA SHIN)  
東京大学・総合文化研究科・准教授  
研究者番号：90301861

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

小林 聡明 (KOBAYASHI SOMEI)  
東京大学・総合文化研究科・学術研究員  
研究者番号：00514499